

## すてきなお仕事①

## 「占いの玉手箱」

## 竹村亜希子さん

淑徳高校の卒業生で現在「占 真も見せてくれた。」

の玉手箱」を経営している竹村亜希子さん(47)は、常設の占いコーナーを全国で初めて設置したり、講演、執筆までこなすすごい人だ。

趣味は乗馬。クラブにも通っていて、十年以上のキャリアを



持つ。この前はア

リゾナに本格的な馬旅行に行ったそう

うで、その時の写

したいと思って、すぐに使える技術が占いでした。易で占ったら「成功するからやってみなさい」と出たので、ある程度の予定をたておさらいをかねて勉強しました。半年後ぐらいに仕事として始めたんです。一応基盤があったので、普通より早く開始することができました。その頃は子どもがまだ小さくて大変でしたね。」

まず最初に企業のイベントコーナーを開こうとした。しかし八月のお盆時期だったため、営業しているお店は車屋くらい。仕方なく手相、命宮学などの教えを受け、その奇妙な体験が彼女の生き方を決めた。ただ仕事にしようと思ったのは二十八歳の時で、既に結婚して、三児の母となっていた。「社会復帰するために」何か仕事がある

の後は事柄によって違いますが、と最後に語ってくれた。

一件一万円程度です」というわけ

で、けっこう高いのだ。

占いの種類も易、人相、手相、

占星術、姓名判断、タロットなど

さまざま。質問事項にあわせて適切な種類を選び、いくつか答えを出して知らせるそうだ。

占い師になるのに必要なことを聞いてみた。「試験などはありませんが、プロ用の勉強をしないと

いけません。良い先生につくのが一番でしょうね。私たちの会社では、まず面接をして将来プロとしてやっというるかどうが見ます。

特別な能力ではなくツールに。昔は占い師になるのに何十年もか

かったんですよ。」

そして、「占いに頼りすぎずに、

たとえ悪い結果が出てもプラスに

つなげていってください。一つの

データとして頭の片隅に置いておく

くらいがちょうどいいんです。」

躍が期待される。

（奥田・児玉）

高Iの担任だった前田邦子先生と、高IIIの担任だった石川校長先生にも当時の竹村さんの印象などを聞いてみると、「明るくてさわやかな感じの子だったねえ。いろんなことをよく知ってて博学だった。歌も上手だったねえ。確かミュージカルをやったんだよ。」(前田先生)

「とにかく元気がよかったね。すぐはきはきはしている子だった。これからも仕事をがんばってほしいです。」(校長先生)という答えが返ってきた。本人が言うには高校時代は自由奔放に遊んでいたということだが、実際に会ってみても本当に明るい感じのする人だった。

これからの目標は、「もっと占いの精神を勉強したい」とのこと。これからのさらなる活躍が期待される。

（奥田・児玉）